
第16回モニタリング会議 ご説明資料 (2018年4月～9月業績報告)

2018年12月4日



1. 計画と実績の対比	p.3
□ 全社PL	
□ 路線バスPL	
□ 軌道PL	
2. 公共交通利用状況	p.7
□ 路線バス	
□ 軌道	
3. 公共交通取組状況	p.9
4. 公共交通に関する設備投資の実施状況	p.10

計画と実績の対比（全社PL）

全社の事業再生計画第4期（2018年4月～9月）実績は、以下のとおりです

※事業再生計画の財務数値は、「とさでん交通」と「とさでんトラベル（旅行業）」との合算

単位：百万円

	2018年度 12ヶ月 計画①	2018/4～6月 第1四半期 実績②	2018/7～9月 第2四半期 実績③	2018/4～9月 6ヶ月 実績④(②+③)	進捗率 ④÷①	2017/4～9月 前年同期 実績	前年 同期比
売上高	5,506	1,479	1,419	2,898	53%	2,900	100%
売上原価	575	233	170	403	70%	345	117%
差引収益	4,931	1,246	1,249	2,495	51%	2,555	98%
人件費	2,544	617	728	1,345	53%	1,378	98%
厚生費	299	87	109	196	66%	198	99%
動力費	524	102	118	220	42%	194	113%
修繕費	298	61	76	137	46%	137	100%
物件費	108	18	23	41	38%	46	88%
経費	1,008	262	229	491	49%	507	97%
諸税	105	19	22	41	39%	43	95%
減価償却費	512	125	116	241	47%	233	104%
営業費計	5,398	1,291	1,421	2,712	50%	2,737	99%
営業利益	-467	-45	-172	-218	-	-182	-
営業外収益	56	35	14	48	87%	62	79%
営業外費用	66	19	13	32	49%	35	91%
経常利益	-477	-30	-171	-202	-	-156	-
特別利益	532	4	4	9	2%	151	-
特別損失	0	0	1	1	-	113	1%
税引前当期利益	55	-26	-168	-194	-	-117	-
法人税等	16	0	12	12	-	12	103%
当期純利益	39	-26	-180	-206	-	-129	-

<経費科目説明>

動力費・・・軌道動力費・バス軽油費等 修繕費・・・軌道、バス事業における各種修繕等 物件費・・・水道光熱費・備用品等
 経費・・・賃借料・借地料・広告宣伝費・道路使用料等 諸税・・・固定資産税・自動車税等 減価償却費・・・固定資産償却・のれん代償却
 営業外収益・・・受取配当金・業務委託料等 営業外費用・・・支払利息等 特別利益・・・補助金等 特別損失・・・固定資産圧縮損等

計画と実績の対比（全社PL）

<事業再生計画比> ※第2四半期につき進捗率50%と比較

豪雨・台風による影響はあったものの売上高、差引収益は計画を上回る進捗。経費は、人件費・厚生費が計画を上回るも、軽油単価は平均すると計画比低位推移し、バス事業の動力費が低減。営業利益・経常利益段階では計画を上回る進捗。

<2018年4月～9月第2四半期の概況>

【売上高】 2,898百万円となり計画に対する進捗率53%

【売上原価】 旅行事業部門における原価率の高い商品の受注増により計画に対する進捗率70%

【差引収益】 2,495百万円となり計画に対する進捗率51%

【営業費】 人件費・厚生費が計画比で増加しているが、軽油単価の低位推移などにより、計画並みの進捗率50%

【営業利益】 計画を上回る進捗ではあるが△218百万円

【営業外収益】 計画比では業務委託料・有価証券配当増などにより48百万円で進捗率87%

【営業外費用】 32百万円となり計画に対する進捗率49%

【経常利益】 計画を上回る進捗ではあるが△202百万円

【特別利益】 一部入金はあるが計画上補助金は年度末に計上

【特別損失】 補助金による圧縮分など

【当期純利益】 第2四半期経過時点で△206百万円の赤字計上（補助金収入は下期に計上）

<対前年同期実績比>

- ◆ 売上高は前年並みであるが、豪雨・台風の影響などによるバス事業の売上減を、原価率の高い旅行事業部門で補う形となり差引収益は減少
- ◆ 営業費用は軽油単価の上昇による動力費増などはあったが、バス事業の人件費減などにより減少
- ◆ 営業損益、経常損益、当期純損益ともに赤字幅拡大

<経費科目説明>

動力費・・・軌道動力費・バス軽油費等　修繕費・・・軌道、バス事業における各種修繕等　物件費・・・水道光熱費・備用品等
 経費・・・賃借料・借地料・広告宣伝費・道路使用料等　諸税・・・固定資産税・自動車税等　減価償却費・・・固定資産償却・のれん代償却
 営業外収益・・・受取配当金・業務委託料等　営業外費用・・・支払利息等　特別利益・・・補助金等　特別損失・・・固定資産圧縮損等

計画と実績の対比（路線バスPL）

路線バス事業の2018年4月～9月実績の専属営業損益は、以下のとおりです

	2018年度 12ヶ月	2018/4～6月 第1四半期	2018/7～9月 第2四半期	2018/4～9月 6ヶ月	進捗率 ④÷①	2017/4～9月 前年同期	前年 同期比
	計画①	実績②	実績③	実績④(②+③)		実績	
売上高	1,064	255	252	507	48%	532	95%
売上原価					-		-
差引収益	1,064	255	252	507	48%	532	95%
人件費	736	190	218	408	56%	424	96%
厚生費	81	26	32	59	72%	60	99%
動力費	186	39	47	86	46%	71	120%
修繕費	120	25	25	50	41%	62	80%
物件費	29	4	6	10	34%	13	75%
経費	164	40	38	78	47%	84	93%
諸税	25	6	1	7	27%	8	83%
減価償却費	116	29	31	61	52%	48	126%
営業費計	1,456	359	399	758	52%	770	98%
専属営業損益	-392	-104	-146	-250	-	-239	-
減価償却前専属営業損益	-276	-75	-115	-190	-	-191	-

単位:百万円

＜計画差異要因等＞

✓ 売上高

- 2017年4月からのスクール線便数減少による減
- " 10月からの安芸線移管による減

✓ 費用

- 人件費:人事制度改正による増、時間外手当増
- 厚生費:人件費増、科目計上ルール変更に伴う増
- 動力費:軽油単価の計画比低位推移など
- 経費:自動車保険料の減等
- 減価償却費:中古車両購入による増

✓ 専属営業損益

- 動力費の低減はあるが、収入の減、人件費の増加などにより、計画を下回る進捗

＜前年同期差異要因等＞

✓ 売上高

- 安芸線移管による減等

✓ 費用

- 人件費:運転業務数減による時間外手当減
- 動力費:走行キロ減はあるも、軽油単価の上昇により増
- 修繕費:車両更新・減車による減
- 経費:自動車保険料の減など
- 減価償却費:車両更新による増

＜専属営業損益とは＞

- ✓ 本社費配賦前の事業別営業損益

＜科目計上ルール変更とは＞

- ✓ 計画上、嘱託社員等の人件費+厚生費を全て人件費に計上していたが、実績は、人件費と厚生費をそれぞれに分けて計上している

計画と実績の対比（軌道PL）

軌道事業の2018年4月～9月実績の専属営業損益は、以下のとおりです

単位：百万円

	2018年度 12ヶ月	2018/4～6月 第1四半期	2018/7～9月 第2四半期	2018/4～9月 6ヶ月	進捗率 ④÷①	2017/4～9月 前年同期	前年 同期比
	計画①	実績②	実績③	実績④(②+③)		実績	
売上高	1,000	267	283	550	55%	529	104%
売上原価					-		-
差引収益	1,000	267	283	550	55%	529	104%
人件費	562	146	175	321	57%	314	102%
厚生費	70	21	26	47	67%	46	102%
動力費	77	19	24	43	55%	42	103%
修繕費	46	10	15	25	53%	22	114%
物件費	22	6	6	13	57%	12	107%
経費	60	17	19	36	60%	33	108%
諸税	15	2	1	3	20%	3	93%
減価償却費	48	11	9	20	42%	17	122%
営業費計	902	232	275	507	56%	489	104%
専属営業損益	98	35	8	43	44%	41	105%
減価償却前専属営業損益	146	46	17	63	43%	57	110%

< 専属営業損益とは >

- ✓ 本社費配賦前の事業別営業損益

< 計画差異要因等 >

- ✓ 売上高
 - 計画を上回る進捗
- ✓ 費用
 - 人件費：人事制度改正による増、時間外手当増
 - 厚生費：人件費増・科目計上ルール変更に伴う増
 - 動力費：賦課金の燃料調整費増
 - 経費：ですかシステム更新賃借料、美術館通P&R代替地賃借料等による増
- ✓ 専属営業損益
 - 専属営業損益は43百万円（進捗率44%）の黒字

< 前年同期差異要因等 >

- ✓ 売上高
 - 運送収入・運送雑収入の増
- ✓ 費用
 - 人件費：時間外手当の増
 - 厚生費：人件費増による増
 - 動力費：賦課金の燃料調整費増
 - 修繕費：定期検査期間変更などによる増
 - 経費：美術館通P&R代替地賃借料等による増
 - 減価償却費：ハートラムⅡ等導入による増

< 科目計上ルール変更とは >

- ✓ 計画上、嘱託社員等の人件費+厚生費を全て人件費に計上していたが、実績は、人件費と厚生費をそれぞれに分けて計上している

路線バスの2018年4月～9月利用状況：運送収入・IC利用客数ともに、前年比95%

- 本表は運送収入のみ
広告収入及び、補償金等の特殊要因が含まれる「運送雑収入」は含めていない

単位：百万円

	2017/7～9月 3ヶ月 前年同期	2018/7～9月 3ヶ月 実績	2017/4～9月 6ヶ月 前年同期①	2018/4～9月 6ヶ月 実績②	前年 同期比 ②÷①
運送収入	259	245	519	495	95%
①定期全体	51	46	104	95	91%
②定期外収入	209	200	415	400	96%
うち、現金収入	117	115	226	221	98%
うち、SF	92	85	189	179	95%

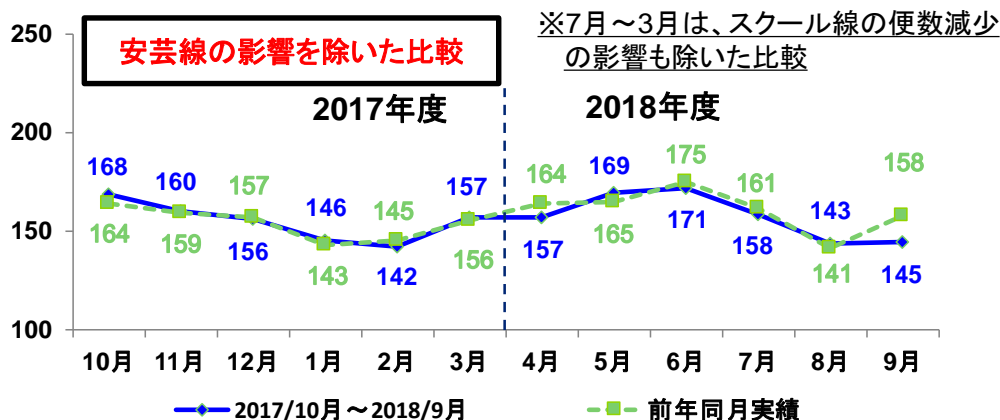
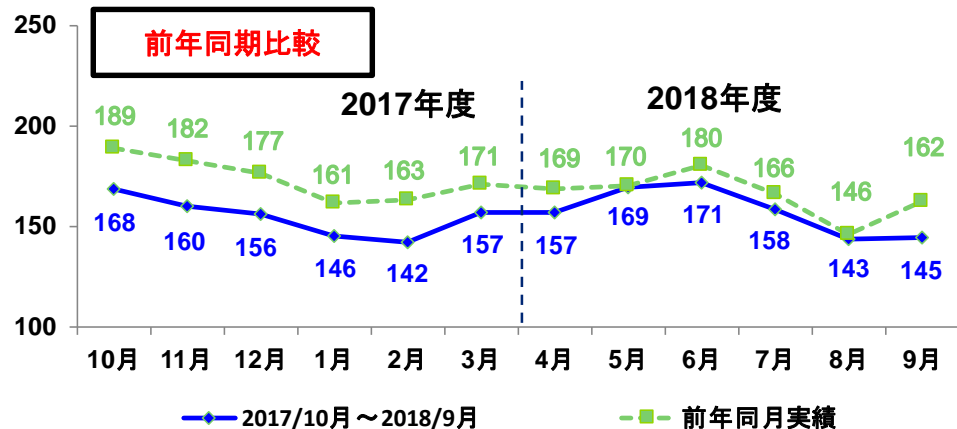
＜路線バス収入の増減要因＞

- ✓ 「ダイヤ改正による減キロ」
2016年10月1日 △3.0%
2017年 4月1日 △1.5% 10月1日 △4.8%
- ✓ 運送収入95%の要因は、2017年10月の安芸線の移管による減少
- ✓ 7月の集中豪雨・8月9月の台風による運休の影響による減少

【安芸線移管の影響】 単位：百万円

	H30
安芸線（東部交通実績）	▲15

＜利用客数推移＞ 単位：千人



＜利用客について＞ ※利用客数は、ICカード「ですか」に基づいており、現金などを除く

- ✓ 減少要因は、2017年10月から安芸線の東部交通への移管などにより、年度累計のICカード利用客数は943千人、前年同期は992千人で95%であるが、前年同月分から、安芸線の影響を除いた場合では963千人で98%となる

【現金利用を含む総利用客数】※定期券は利用実績で集計

- ✓ 年度累計の総利用客数は1,573千人、前年同期は1,619千人で97%

・ IC使用率は約65%(利用客数による)

軌道の2018年4月～9月利用状況：運送収入は前年比104%、IC利用客数は前年比99%

- 本表は運送収入のみ
広告収入及び、補償金等の特殊要因が含まれる「運送雑収入」は含めていない

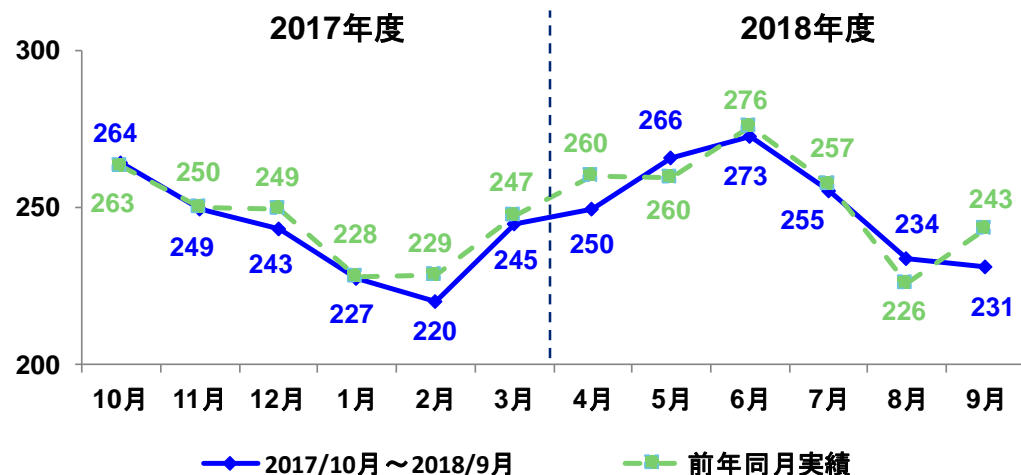
単位：百万円

	2017/7～9月	2018/7～9月	2017/4～9月	2018/4～9月	前年 同期比 ②÷①
	3ヶ月 前年同期	3ヶ月 実績	6ヶ月 前年同期①	6ヶ月 実績②	
運送収入	241	255	476	495	104%
①定期全体	64	65	131	131	100%
②定期外収入	176	191	345	364	106%
うち、現金収入	121	134	231	249	108%
うち、SF	56	56	114	115	100%

＜軌道収入の増減要因＞

- ✓ 運送収入は、前年同期比104%と微増
- ✓ 「雨天日」は、2018年4月～9月で前年比+12日※豪雨・台風を除く
- ✓ 7月学校休、豪雨によるイベント中止、8月・9月運休の影響あり
- ✓ 雨天日が前年比12日多く、志国高知幕末維新博による観光客の入込み、各種利用促進施策の取り組みなどの効果もあり、現金収入を中心に好調に推移した

＜利用客数推移＞ 単位：千人



＜利用客について＞ ※ICカード「ですか」に基づいており、現金などを除く

- ✓ 対前年同月比、5月8月は増加、その他は減少
- ✓ 6ヵ月累計のICカード利用客数は1,509千人、前年同期は1,522千人で99%
- ✓ 減少要因は、主にナイスエイジカード(65歳以上の方を対象とした定期券)の利用者減

【現金利用を含む総利用客数】 ※定期券は、1枚×60人で集計

- ✓ 6ヵ月累計の総利用客数は3,200千人、前年同期は3,123千人で102%

• IC使用率は約50%(利用客数による)

2018年度、路線バスと軌道の取組施策は以下のとおりです

内容	路線バス	軌道
■2018年4月1日～9月末まで		
1. 「バスこっち」データを活用した運行時分の見直し 4月	○	-
2. ですかキャンペーン実施 4月～	○	○
3. 日産サテオ高知 交通安全フェア 4月	○	-
4. 車庫見学の受け入れ(児童福祉施設) 4月、7月	○	○
5. ローラー活動(棧橋・神田他) 4月、6月、7月	○	○
6. 電車の日イベント 5月	-	○
7. 設置型バスロケ運用開始 5月	○	-
8. 高校県体応援一日乗車券の販売 5月	-	○
9. 公共交通体験プログラム<電車とバスで高知をうろちよろ> 6月	○	○
10. 防災訓練 6月	○	○
11. 春・夏・冬休み!バスキッズ定期券販売開始 7月～	○	-
12. バスキッズイベント 7月・8月	○	-
13. とさっ子タウン2018 イベント出展 8月	-	○
14. 小学生を対象とした出前授業 8月、9月	○	○
15. 公共交通に関する講演活動(高坂学園生涯大学) 9月	○	○
16. 交通安全ひろば 9月	○	○
■2018年10月1日以降		
1. 日産サテオ高知 交通安全フェア 10月	○	-
2. 国土交通省大学 特別講師派遣 10月	○	○
3. クラウドファンディング 看板設置プロジェクト 11月	-	○
4. ローラー活動(船岡南団地付近) 11月	○	○
5. 車庫見学の受け入れ(須崎小・付属中 他) 10月、11月	-	○
6. 小学生を対象とした出前授業 10月、11月	○	○

公共交通に関する設備投資の実施状況

2018年4月～9月の公共交通に関する設備投資は、以下表のとおりです

【2018年度 設備投資計画実施内容】

単位:百万円

事業	計画			実施		備考
	投資計画総額	主な投資内容	投資計画額	投資実績額	投資目的・狙い	
路線バス	177	補助車両(5輛)の購入	107	43	安全安心、利便性向上	補助車両(ノンステップバス2輛)購入 年度末までに残り3輛購入予定
		その他	71	29	安全安心、利便性向上	中古車両8輛運用開始、領石回し場路盤改良工事完了 一宮BT建替12月 他を予定
軌道	157	レール重軌条化工事	50	0	安全安心	大橋通～上町2丁目の一部区間
		分岐器交換	27	0	安全安心	上町5丁目
		き電線改良	12	0	安全安心	後免線、いの線の一部区間
		朝倉待合所 全面改修	12	0	利便性向上	
		その他	56	6	安全安心他	電柱建替更新、葛島P&R駐車場整備他完了 4柱式リフトジャッキ、ハートラム貫通幌交換他を予定
合計	334			78		

■一宮BT建替は、棧橋集約費用の一部として2016年度に50百万円を予定し、2017年度へ持ち越したが、土地売却・整備計画遅延により2018年度へ持ち越し

■路線バス低床化率 53.54%(平成30年9月末時点)【路線バス車両数 127輛(空港連絡除く)、うち低床車両 68輛】

【事業再生計画 設備投資計画進捗状況(累計)】

単位:百万円

		計画0期 15/3半期	計画1期 16/3期	計画2期 17/3期	計画3期 18/3期	計画4期 19/3期	計画5期 20/3期	累計	
路線バス	計画	109	151	111	111	111	111	703	
	実績	146	70	120	138	72		546	77.7%
軌道	計画	51	139	279	197	118	37	821	
	実績	51	125	116	366	6		664	80.9%